

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700126		
法人名	社会福祉法人ポロシリ福祉会		
事業所名	グループホーム梅花荘		
所在地	中札内村西2条南5丁目6-1		
自己評価作成日	平成27年3月10日	評価結果市町村受理日	平成27年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700126-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は消費税増税に伴う介護報酬の改訂、家族の負担も考えて利用料金に含まれていなかった光熱水費を利用料金に加算するといった、家族に負担をかける状況になった年でした。運営推進会議での説明、面会時に直接お話をしたり、遠方への家族へは電話連絡と手紙等で説明させていただき、皆様のご理解とご協力を得て料金改定をいたしました。開設当初から感じる事ですが、職員の関わりから、家族との信頼関係が良い状態である事に管理者として誇りに思う点であります。

逆に昨年度より課題にしていた、職員配置を工夫し利用者の外出計画の充実を目標にしてきましたが、職員配置の充実に今一步足りない事が多く、最低限度の関わりしかできませんでした。来年度の年間職員配置を作成しましたので、反省を活かせる用に、利用者の方々々に今まで以上に楽しく過ごしていただけるよう、管理者として関わって行きたいと思っております。

100歳の方をはじめ、90歳代の方々から3人いらっしゃいます。身体機能面に関してグループホームでの生活が難しいのではと感じたり、食事の面においても普通食や刻み食では対応できず、作った食事をミキサーにかけなければならない現状にありますし、重度の認知症の方もいらっしゃいます。その中でも、利用されている方々に笑顔で接する職員を見ると、良い仲間と一緒に介護に取り組める事を光栄に思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中札内村中心部に開設されている木造平屋造り1ユニット(定員9名)でスプリンクラー、火災報知器、通報設備等を備えたグループホームです。

毎月開催される地域ケア会議には、行政及び包括支援センター、地域の福祉関係者が集まり、地域の困難事例や各事業所の取り組みなど話し合い、地域のサービス向上に連携して協力関係を築くよう取り組んでいる。

また、職員間のチームワークも良く、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、本人の希望にそって支援していると共に事業所独自の家族アンケートを実施して、意見や要望、苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見を運営に反映できるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えた基本理念を掲示し、共通意識を持ってケアに繋げている。	事業所独自の理念をつくりあげ、見やすい場所に掲示し、カンファレンス等で話し合い、職員間で共有してその実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	頻度としては少ないと感じています。区の行事や買い物、散歩等で少しは交流出来ていると思います。	地域ケア会議への参加や日常の散歩、買い物や地域の馴染みの人達との交流で地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしているとは言えません。最低限として運営推進会議や家族面会時にお話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催をしています。	運営推進会議を2か月毎に開催し、利用状況や日常生活の様子、事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の地域ケア会議をはじめとし、報告・連絡・相談等の連携、協力は出来ています。	地域ケア包括会議での情報交換や行政と相談や助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、会議・報告・検討を行いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。施錠に関しては、防犯上の理由で夜間のみ実施しています。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会を設置して正しく理解しており、高齢者虐待や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時において資料の添付、合同研修を通して防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招いての研修会の参加はしましたが活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ケアプランの説明時や運営推進会議等で意見を聞いて、反映できるように努めています。	利用者・家族等が意見や苦情、要望等を言い表せるように事業所独自の家族アンケートを実施してその機会を設けている。また、苦情等を第三者に申し出られるように連絡先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の業務の中で意見交換を設け反映できるように努めている。	職員会議や日々の業務を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすいと感じる職員もいるが、業務内容を見直す機会に来ていていると感じている職員もいます。法人全体の事に係る内容なので、検討していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会はありますが機会は少なく施設内研修を進めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はありますが、外部交流も今後進めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの相談を含め対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前相談や契約時の家族と話し合える時間を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りの選択肢を用意し対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々を尊重し、共に良い生活が出来る様に良い関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互に助け合えるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行ったり毎月外泊に行かれる方もいます。	自宅への帰宅や馴染みの美容室の利用や散歩、買い物など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小さいトラブルもあるが、顔見知りの方々も多いので関わり合いはありますが、認知症の状況により、独りになる事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	撮影した写真をCD-Rにコピーし家族に渡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に沿った生活が出来るように会議や日々の業務内で検討しています。	日々の会話の中や家族からの情報で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や家族、本人の話を元に対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を元に日々変化する状況の中でも一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、家族との意見交換をふまえてケアプランを作成しています。	本人、家族の意見や要望、職員会議や担当者会議を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を理解し情報を共有出来る様、個別に記録を残しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて柔軟な対応が出来ていると思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働という内容が難しいですが、安全で安心な生活が出来るように、意識し対応するようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医、緊急時の希望医療機関を入居前に確認し一覧表にして対応しています。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、日常の健康管理や通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がありませんので、地域の診療所に相談・受診をしています。診療所が休みでも、対応していただいていますので、その面では助かっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族、施設職員でのカンファレンス等で対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療の割合が多くなった場合の対応等の説明は、入居前にしっかり話し合っています。グループホームでの生活が限界手前までの方もいますので、家族への情報提供は重要と感じています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練は行っていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時のマニュアルや避難訓練は出来ているが地震・水害に関する体制等が未完全です。自動通報装置の設置により地域との協力体制は出来ていると思います。	消防署の協力を得て年2回の火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置の設備が完備し、オール電化で直火の使用は無い。	今後は、地震や停電時に備えた準備や食料の備蓄を検討しているので、その実践に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本事項として対応するように努めているが、場合により気になる事もあります。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に添える様に心がけているが、職員側に余裕がなかったり等で、我慢をしてもらったり職員本位になってしまう事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活したいペースやリズムを尊重するように心がけているが、希望に添えない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理髪の利用、日々の身だしなみに気を付けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事量、食事形態、好みを把握し対応しています。身体機能の低下により一緒に準備や片づけは出来ていません。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、身体機能の低下がみられるが職員と一緒に食事を行い、下膳等を行えるよう声かけなど工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限りで個々に合った対応をしています。食事量と水分量の確認も毎回しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しています。個々に合った口腔ケアの道具も用意し使用しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄ケアの取り組みはしていますが自立に向けた支援に努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	少しではあるが取り組みは行えていると思いますが、下剤等に頼る部分もあります。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バランス等の考慮もあり曜日・時間は決めています。曜日や時間は出来る範囲で変更は可能です。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟な入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った日中の休息と就寝対応をしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての把握できてはいませんが、主治医の指示通りの対応を行っていますし、過去の誤薬をふまえてマニュアルを整備し細心の注意で対応しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換できるような楽しみ事が少ないと感じます。少ない中でも出来る範囲で対応していますがもっと増えるようにしていきたいです。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の方の外泊、病院受診等では家族の協力を得て出かけているが、職員配置の関係もあるが機会を増やしていきたい。	自宅への訪問や地域のお祭り見物、散歩や買い物など戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方はお一人います。パンが好きな方で職員が購入しています。その方以外の方々は、事務所で管理しており、毎月領収書とお小遣い表を作成し家族に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す方や心配事があって家に電話を掛ける方がそれぞれお一人づついますが、それ以外の方々は面会の時にお話する程度で手紙等のやり取りを行こなえるよう努める。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使っていた家具や個々の物を持参していますが、施設内は飾り物は少し少ないかもしれません。	共用空間には、一人になったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなように過ごせていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂いています。	居室には、仏壇や使い慣れた家具などの馴染みの品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いトイレ・廊下は良いと思いますが、浴室が一般家庭と同じものなので、高齢の方、特に、車椅子の方々にも対応している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 梅花荘

作成日: 平成 27年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災想定避難誘導訓練や対応マニュアルの作成はしているが、地震・停電等の災害に関する対策が不十分である。 特に、オール電化の為、停電時における必要物品の準備・備蓄が不十分。	地震・停電の災害時のマニュアルの見直しと、必要物品の準備と備蓄体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時マニュアルの見直し。 ・停電時において予測される被害とその対策を考える。 ・備品準備に向けた予算・計画の立案。 	1年
2	13	職員会議においての情報交換や書類を通しての勉強はしているが、外部研修を通しての学習やスキルアップの機会が無い為、新しい介護知識・技術、認知症への新たな知識を得る機会が少ない。	外部研修や他施設との交流を通し、介護や認知症の新たな知識を学ぶ。そして、研修参加者だけではなく、他職員へも得た知識を共有し職員全員がスキルアップできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加ができる職員配置の工夫。 ・地域で開催する研修会への積極的参加。 ・研修参加後の施設内報告会の開催 	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。